
お前らしい加減にしろ

作者X

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お前らしい加減にしろ

【Nコード】

N3413Y

【作者名】

作者X

【あらすじ】

これは、俺の親友とその彼女の話。

……とりあえず、俺が2人に言いたいのは、一言だけだ。

(前書き)

ちよつと変わった恋愛小説を書いてみようと思ひまして……。
……どうしてこうなった。

俺の名は雅居^{がい}弥人^{やひと}。

ごく普通の高校に通う、ごく普通の高校生だ。
この日、俺はいつも通り高校への道を歩いていた。

「おーい！弥人！」

と、後ろから男の声が聞こえてきた。

声だけで判別はできていたが、一応振り向き、姿を確認する。

「おう、歴。土戸も」

「おっす！」

「おはよ、雅居くん」

2人の男女とにこやかにあいさつを交わす。

男の名前は出田^{いでたれき}歴。

小学校から付き合いのある、俺の親友だ。

女の名前は土戸^{つちど}菜緒^{なお}。

こちらは中学校からの付き合いだ。

……ちなみにこの2人、最近付き合い始めたんだけど……。

「一緒に登校か、相変わらず仲良いな」
『っ！？』

俺の言葉を聞いた瞬間、2人の顔が真っ赤に染まる。

……あ、しまった。つい……。

「か、勘違いしないでよ雅居くん!!」

た、たまたま! たまたま途中で一緒になっただけなんだから!!」

「そ、そうだぞ弥人!!」

べ、別に一緒に登校してるわけじゃねえんだからな!!」

「……ああ、うん。分かった分かった」

またか……。

実はこの2人、そろいもそろって意地っ張りというか、素直じゃないとか、そんな感じの性格なんだ。

中学1年で互いに一目ぼれしてから、4年間ずっとこんな感じだ。

……やっと恋人同士になったってのに、全然変わらないのは正直どうかと思うんだけど……。

「ほ、ほら! 早く行こうぜ! 遅刻しちまうだろ!!」

「そ、そうね! 行きましょ!」

明らかに動揺したまま、2人は早足で歩きだす。

……実際は、のんびり歩いても十分間に合う時間なんだけど……まあいいや。

登校後、HRも終わり、もうすぐ1時間目が始まる。

ちなみに席は、俺が前から3番目の左から2列目、歴が俺の前で、その隣が土戸だ。

「あ……あれ?」

「どうした? 菜緒」

俺が1時間目の用意を出し終わった時、前から声が聞こえてきた。

「教科書……忘れちゃったみたい」

どうやら、土戸が教科書を忘れたらしい。

1時間目は国語なので、教科書なしで授業を受けるのは無理だろう。
……なんか、嫌な予感がする。

「しょうがねえな、俺のを見せてやるよ」

「あ、うん。ありが……」

「……? どうし……」

お礼を言いかけて、土戸は口を止めた。それに気づき、疑問を口にしようとした歴もまた、途中で止めてしまう。

おそらく2人とも気づいたのだろう。

……教科書を2人で見るために、机をくっつけなければならないということに。

「か、勘違いすんなよ!!」

お前が教科書を忘れたっていうから、仕方なくくっつけるだけなんだからな!!」

「そ、そっちこそ勘違いしないでよ!!」

べ、別にあんたと机をくっつけたって、嬉しくなんてないんだから!!」

顔を真っ赤にして言い合う2人。

なお、教室中に響き渡る程の大声だったが、クラスメート諸君は特に驚きもせず、むしろ、またか……、というような目で2人を見ている。

……そう、こんなこと、このクラスでは日常茶飯事なんだ。

当然、このクラスで、この2人が恋人同士だと知らない人間なんて

いない。

そんなこんなので4時間目まで授業が終わり、現在は昼休み。
この学校には食堂もあるけど、俺はいつも弁当を持参して食べている。

「弥人、一緒に食おうぜ」

「おう」

後ろを向き、俺の机にコンピニで買ったであろう、焼きそばパンと昆布おにぎりを置く歴。

「……いつも思うけど、パンとおにぎりって組み合わせはどうなんだ？」

「うるせー、俺は両方好きなんだよ」

そういつて、歴は早速焼きそばパンの袋を破こうとする。

「れ、歴！！」

と、そこに土戸から声がかかった。

見てみると、彼女はほのかに顔を紅潮させ、後ろ手に何かを持っていた。

……あ、なんかまた嫌な予感が……。

「おう菜緒、お前も一緒に食うか？」

「あ、うん……えっと、こ、これ！！」

バツ！と勢いよく歴の前に出されたのは……1つの弁当箱。
土戸の机にもう1つあるから、これは彼女が食べる物ではないだろう。

つまり……、

「お、俺に……？」

「う、うん……」

戸惑いながらも歴に弁当を渡す土戸。

同じように顔を真っ赤にして弁当を受け取る歴。

……なんだこのピンク色の空気、と思ったのもつかの間。

「ほ、ほら！！私達一応恋人なんだし……か、彼氏の健康管理は彼女の義務でしょ！？」

だから、し、仕方なく作ってきただけなんだから！！」

「お、おう！！分かってるよそんなこと！！」

俺だって、受け取らないと悪いと思ったから受け取っただけで、別に嬉しくなんてねえからな！！」

また始まった……。

もういいや、2人のことは気にしないで、さっさと食べ始めよう。

「な、なによそれ！？せっかく作ってきてあげたのに！！」

「別に作ってくれなんて頼んでねえだろ！それに、俺はいつもパンやおにぎりで済ませてるって、お前も知ってるだろ！？」

「いつもコンビニで買ったものばかり食べて、体に悪いでしょ！！だから、ちゃんと栄養を考えて作ってきたのに！！」

「余計なお世話だ！！お前は俺の母親か！？」

あー、なんか今回の言い合いは長いなあ……。

「だったらいいわよ!! もう弁当なんて作ってあげないんだから!!」

「っ……!!……す、好きにしろよ!! 俺は別にお前の弁当なんて食いたくねえし!!」

「なんですって!?!」

……なんか、いつにもましてヒートアップしてるな。
ちよっと、止めた方がいいか?

「2人とも、少し落ち着……」

「じゃあこの弁当もいらないわよね!! 返してよ!!」
「あ……」

今渡した弁当を歴から取り上げる土戸。……俺の声、全く届いてないな。

「……………」

流石に言い過ぎたと後悔しているのか、苦々しい顔をしている歴。
そんな歴に背を向け、土戸はうつむいて呟きだした。

「どうせ、私が作ったお弁当なんておいしくないし……食べたくないわよね」

「な、菜緒……」

「……せっかく、作ったのに……」。

歴を喜ばせようと思って、がんばったのに……」

「っ……!!」

それを聞いた瞬間、歴は意を決した表情になる。

そして、無言のまま、土戸から弁当を取り返した。

「あ……れ、歴……？」

「……悪かったよ、意地張って」

「え……」

「……弁当、ありがとな」

「……うん！」

そうして、2人はしばらく、笑顔のまま見つめ合っていた……。

……こいつら、ここが教室だって分かってるよな？

空になった自分の弁当を片づけつつ、俺は心の中でこっそりため息をついた。

そして放課後。

帰り支度をしていると、歴から声をかけられた。

「悪い弥人。今日は先に帰るな」

「ん、いいけど……」

いつもなら俺、歴、土戸の3人で帰るはず。

……理由は、なんとなく分かるけど。

「今日は菜緒と2人で帰りたいんだ、な？」

「うん。ごめんね、雅居くん」

「……だろうと思ったよ。じゃ、また明日」

「おう、またな！」

「また明日！」

俺と別れると、2人は手をつないで教室を出ていった。

……せめて学校を出てからつなげよ、と言いたいところだけど、まあいいや。

小さくため息をつく。

今はあんな様子だけど、明日になったらまた、意地を張って言い合いを始めるんだろう。

付き合いの長い俺はもちろんのこと、このクラスの人達も、はつきりいってもう慣れた。

……だけど、それでも俺は、思わずこう呟いた。

「……お前ら、いい加減にしろ」

(後書き)

この小説を書こうと思った経緯…

最近短編小説書いてないな。

たまには恋愛小説とか書いてみよう。

←

そういえばツンデレってあんまり書いたことないな。

よし、せっかくだから書いてみよう！

←

でも、女の子がツンデレってちょっとありきたりだな。

だからって、男だけそうするのも…。

よし！ いっそ両方ツンデレにしよう！！

…結局、ちゃんとツンデレとやらになったのか少し疑問ですが、とりあえず勢いで書くのは楽しかったです。

ここまで見て下さり、ありがとうございました！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3413y/>

お前らしい加減にしろ

2011年11月8日06時07分発行